的要請に対処すべき応用気象学の発展を阻害している．工学部・農学部などにおける気象教育は理学部のそれと併せて緊急の課題である．さらに教員養成学部における気象教育は教官の数だけの問題ではなく，理科教育における位置づけが今後の課題となるであろう（「気象教育の推進のために」気象研究ノート編集委員会，天気第23巻第1号参照）．

気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所
第2回リモートセンシング・シンポジウム	昭和51年11月1日～2日	計測自動制御学会	日本都市センター
大気と海洋における中規模じょう乱に関するシンポジウム	昭和51年11月25日～26日		東大海洋研究所
構造物の耐風性に関する第4回シンポジウム	昭和51年12月2日～3日	日本気象学会その他	気象庁
昭和51年度日本気象学会関西支部 第2回例会	昭和51年12月7日～8日	日本気象学会関西支部	高松地方気象台
月例会「レーダ気象」	昭和51年12月9日	日本気象学会	気象庁内
第23回風に関するシンポジウム	昭和51年12月14日	日本気象学会その他	気象庁
波浪の観測・予報と利用に関するセミナー	昭和51年12月15日～16日	ECOR 日本委員会	土木学会講堂

原稿締切り日を守って下さい

“天気”は，原則としてその月の末日に発行されます．そのためには，発行前月の中頃より，ページ数の多いものから印刷を始め，半ページ・1ページ位の小さな記事も，発行月の始めには揃える必要があります．本号がお手元に届く頃ですと，既に11月号の編集が大詰めに入り，12月号の原稿もそろそろ集まり始めているのです．もし，これから11月号の原稿が来ますと，その長さにもよりますが，その為に発行が遅れる可能性もあります．

そこで，編集委員会では，**原稿の締切りを発行月の5日**（12月号の場合，12月5日）としました．“学会だより”などでその号に入れなければいけないが，どうしても期日には原稿が間に合わない，という場合は，その長さ，内容，投稿予定日など，前もってお知らせ下さい．ただし，その場合，多少校正もれが出てしまうかもしれませんが，その点はご容赦下さい．原則として，締切り日に遅れた原稿は，次号にまわす事に致します．

今後とも，発行日を遅らせる事のないよう，編集委員一同昼夜の別なく努力致しますので，よろしくご協力下さい．

（天気編集委員会）

［訂正］ 先月号（Vol. 23, No. 9）に，原稿締切り日が“**発行前月**の5日（11月号の場合，10月5日）”とありますのは，“**発行月**の5日（11月号の場合，11月5日）”の誤まりでした．お詫びして訂正いたします．